

第9・10章 4. g、バルト海の覇者＝ロシア(2)

- ③ 17～18世紀前期 [1 **ピョートル1世(大帝)**]により絶対主義化
 - ア) [2 **西ヨーロッパ**]への視察をもとに、軍事・産業などの西欧化を図る。
 - ([3 **啓蒙専制君主**]としての性格を持つ)
 - イ) シベリアに進出、[4 **清**]との間で[5 **ネルチンスク**]条約締結→国境の確定と通商の開始
 - [6 **オスマン**]帝国を圧迫、**アゾフ海**に進出、[7 **南進**]政策を開始する。
 - [8 **黒海**]への出口
 - ウ) 「ヨーロッパへの窓口」をもとめ[9 **バルト**]海への進出をめざす。→[10 **スウェーデン**]と対立
 - 1700～21 ポーランド・デンマークとむすびスウェーデン(カール12世)を破る([11 **北方**]戦争)
 - バルト海の覇者の地位を獲得、[12 **ペテルブルク**]を建設、首都とする
 - ↓
 - ヨーロッパの列強の一角を占めるようになる
- ④ 18世紀後半 [13 **エカチェリーナ2世**]＝啓蒙専制君主の典型
 - ア) [14 **南進**]政策を進め、[15 **クリミア**]半島を獲得、[16 **黒**]海に進出
 - イ) [17 **オホーツク**]海へ進出、[18 **ラクスマン**]を日本に派遣
 - ウ) [19 **プロイセン**]、オーストリアとともに[20 **ポーランド**]分割を実施(1772,1793,1795)
 - エ) [21 **プガチョフ**]の乱以後、貴族と妥協、[22 **農奴**]制・専制政治を強化

17世紀前半ミハイル＝ロマノフによって[23 **ロマノフ**]朝が打ち立てられたロシアでは西欧とは逆に[24 **農奴**]制が強化されつづけたため、17世紀後半には農民反乱である[25 **ステンカ＝ラーズン**]の乱なども発生した。

17～18世紀前期の[26 **ピョートル1世**]は軍事・産業などの西欧化を図り各地への領土拡大を進め、のちのロシアの基礎を作った。東では清と[27 **ネルチンスク**]条約を締結。[28 **南進**]政策を進めて[29 **オスマン**]帝国を圧迫し、[30 **黒海**]の入口に当たる**アゾフ海**へ進出した。また西欧への窓口を確保するため、[31 **バルト**]海を支配していた[32 **スウェーデン**]との間で20年以上にわたる[33 **北方**]戦争を行いこの海の覇権を獲得、バルト海沿岸に[34 **ペテルブルク**]を建設、首都とした。こうして、ヨーロッパの五大強国の一つとなったロシアはオーストリアやフランスと結んで[35 **七年**]戦争にも参加した。

18世紀後半、ドイツ出身の女帝[36 **エカチェリーナ2世**]は[37 **オスマン**]帝国からクリミア半島を奪うなど[38 **南進**]政策を進め、[39 **黒**]海に進出した。東方においても極東へ進出、[40 **ラクスマン**]を日本に派遣するなど積極的な動きを示した。また西方では[41 **プロイセン**]、オーストリアと三回にわたり[42 **ポーランド**]分割を実施、フランス革命中の1795年には[43 **コシュエシコ**]らの抵抗を破ってポーランドを完全に分割した。[44 **啓蒙専制**]君主として西欧化をめざす改革を進めたが[45 **プガチョフ**]の乱以後、[46 **農奴**]制や専制政治を強化するなど反動化した。

h、ポーランド分割

- ① ポーランド(西[47 **スラブ**]人)、10世紀ごろ自立
 - 14世紀前半 リトアニア＝ポーランド王国([48 **ヤゲウォー**]朝)成立
 - ＝ドイツ騎士団の進出とたたかう
- ② 16世紀後半、ヤゲウォ朝の断絶→[49 **選挙**]王制に→[50 **貴族**]同士の対立、大国の干渉を招く。
- ③ 1772 第一次ポーランド分割
 - …[51 **プロイセン**]、[52 **オーストリア**]とともにロシアに[53 **ポーランド分割**]を提案
 - (フリードリヒ2世)(マリア・テレジア、ヨーゼフ2世) ([54 **エカチェリーナ2世**])
 - 各国の国境に近い領土を奪う
- ④ 1793 第二次ポーランド分割…[55 **フランス革命**]の混乱に乗じて、[56 **プロイセン**] [57 **ロシア**] 両国で強行
 - エカチェリーナ2世
- ⑤ [58 **コシュエシコ**]ら義勇軍の抵抗運動発生→1795 第三次ポーランド分割によりポーランド消滅
 - アメリカ独立戦争で活躍

i. イギリス絶対主義

- ① 15世紀後半、[59 **ばら**]戦争後成立した[60 **テューダー**]朝のもとで絶対主義化進行。
 - 王は[61 **議会**]を通して[62 **ジェントリ**]らの協力を得て改革を進める。

◎イギリスの立憲主義の進展

1215 [63 **大憲章**]→1265[64 **シモン＝ド＝モンフォール**]の議会→1295[65 **模範議会**]

イギリス憲法の出発点 国民からの議会の形成 イギリス議会の出発点

- ② [66 **イギリス国**]教会を設立([67 **ヘンリ8世**]「首長令」、エリザベス1世[68 **首長**]令)
 - 教会を国王の支配下におき、修道院の土地などを競売

ジェントリ…イギリス(イングランド)における[69 **地主**]階級。かつての騎士階級が[70 **宗教改革**]時に修道院の土地などを獲得し地主化したもの。軍の[71 **将校**]としてイギリス軍の中枢をしめるとともに、[72 **地方政治**]の担い手として地方に強い影響力を持ち、[73 **議会**](下院)に議席を占めた。商工業にも進出、資本家の性格をあわせもつものも多く、[74 **カルヴァン派**]の影響を受けるものも多かった。

- ③ 16世紀後半[75 **エリザベス1世**]の時代に全盛期をむかえる。
 - ア) 新興中産階級のなかに[76 **カルヴァン**]派プロテスタント([77 **ピューリタン**])浸透

イ) 海外進出の急速な発展へ(1600[78 **東インド会社**]設立、[79 **ヴァージニア**]植民地建設など)

⑤イギリス絶対主義の特徴(フランスと比べると不十分!!)

- 1) 官僚制や常備軍の未整備→そのかわりを[80 **ジェントリ**]がになう。
- 2) 国王は[81 **議会**]を通してジェントリとの利害を調節
 - 宗教改革も彼らの利害と一致(修道院の土地を獲得)
- 3) イギリス王は[82 **カトリック**]を排除し[83 **イギリス国教会**]の首長として教会組織に君臨